

## 最近の咬合学の考え方

双峰歯科クリニック 院長 三輪一雄

2017年10月にアメリカ補綴学用語集第9版において、中心位CRの定義が大幅に改変された。それを受けて理論的なことや手技的なことの解釈が変わり、現在までもまだ混乱が続いているように思われる。顎頭中心の考えから生理的な見解を導入してきたことはよいのだが、元々それらの視点は無視され続けてきたために臨床に取り入れていく方法が確立されていない。ある意味では視野が広がり臨床的な解釈がしやすくなっただけだが、それでも偏りがありそれぞれに特長もあるので、行う際にはよく理解をした上で活用していかなければならない。今回はそれを各々の方法の違いの根拠と注意点、そして現在の考えを整理してお伝えしたいと思う。皆さんの臨床において、咬合学を活かして根拠ある治療計画を立案していく上でお役に立てれば幸いである。